

紹介

山本隆志編著

『那須与一伝承の誕生』

——歴史と伝説をめぐる相剋——

那須与一といえは、元暦元年（一一八四）の屋島合戦に源義経率いる鎌倉方軍勢の一人として参戦し、平家方の舟に掲げられた扇の的を射た下野武士として有名だが、実は彼のことを記した信頼できる史料はきわめて少ない。むしろ編者の山本隆志氏が「伝承とともに存在した与一を叙述してみたい」（はしがき）とするように、那須与一は平安末期の人物としてのみならず、後世の伝承の中でこそ重要な人物であった。さらに意外なことに、那須与一の扇射伝承は東国武士社会ではさほど注目されておらず、伏見即成院や瀬戸内で展開を遂げ、近世になって下野那須家の由緒に組み込まれたといい、列島規模の広がりをもつ研究対象といえよう。

介
伝承という性格上、その形成や受容の背景をおさえる作業は一筋縄ではいれないが、

本書では各章の執筆者が様々な着眼点から、古文書等の基本的な史料に加えて金石文・物語・寺社縁起・系図・絵図・武器・地理環境等の様々な資料を駆使して那須与一と那須家の歴史を描いている。

はしがき・あとがき・人名索引に加えて、以下の通り第一部に那須家の各地域での動向を通史的に扱う六章分、第二部に与一伝承に関わる特論を扱う四章分が配される。

第一部 那須与一と那須家の歴史

第一章 那須与一と扇の的——平家物語の叙述と構想——／第二章 源平内乱のなかの那須家／第三章 那須野狩りと御家人那須家／第四章 那須家の館／第五章 国家・社会の分裂・統合と那須家／第六章 戦国期の那須家と与一伝承の再生（以上、山本隆志）

第二部 与一伝承の生命力

第七章 与一所用と伝える太刀と矢（近藤好和）／第八章 那須家伝来の甲冑（近藤好和）／第九章 芭蕉の訪ねる那須家の史跡（新井敦史）／第十章 「那須与一」の復活（阿部能久）

第一章では人名や筋立て等が微妙に異なる『平家物語』諸本の扇射の叙述を整理し、

第二章では元暦年間（一一八四～八五）の瀬戸内合戦や鎌倉幕府成立期の関東の抗争を概観して、那須与一を同時代に位置付ける。延慶本『平家物語』に見える那須御房左衛門が在京して平清盛に仕えていたとする指摘は興味深い。

第三章では、建久四年（一一九三）の下野国那須野狩りや、鎌倉中後期の那須惣領家と下野・瀬戸内・出雲等の那須一族・庶家の御家人としての動向を描く。第四章では那須の地域的特色に注目し、平安時代以来の歴史的背景や風土、那須家の館、雲巖寺等について述べる。第六章でも那須地域の自然環境が言及される。

第五章では、主に文書を用いて南北朝期～室町期の那須惣領家・庶家・那須衆の周辺勢力との連携・分裂の様相を詳細に描き、第六章で戦国時代における与一伝承の受容状況と合わせて統一政権下での那須家の改良と復活を跡付ける。

第七章・第八章では、中世武器に関する基礎知識を踏まえて、与一所用と記す文献史料と武器の実物を検討し、成高銘太刀が与一の時代の遺品であること、与一奉納矢が年代未詳ながら中世に遡ること、鏢糸威

桐丸が室町時代の典型的な様式であることを解明。

第九章では、芭蕉が訪ねたことで新たな伝説の地として再生した那須地域の史跡を扱う。

第十章では、「太郎」を代々の仮名としてきた那須家が、豊臣秀吉による改易の危機が迫る中で、『平家物語』等を通じて社会に広く知られていた那須与一の後裔であることを誇示すべく仮名「与一」を復活させ、やがて与一宗隆を元祖と位置付けたとする。

過去の現象を扱う際に、事實は史学、伝承は文学という区分が今なお強いように思われるが、伝承として歴史上の産物に違いない。本書はその研究方法を鍛えていく際の好例となろう。

(四六判 二八四頁 二〇二二年三月)

ミネルヴァ書房 税別四〇〇〇円

(長村祥知 京都文化博物館学芸員)

編集後記

ようやく九五巻六号をお届けすることができました。こしばらくは論文の数がなかなか揃わず、編集作業も滞りがちになっています。これは偶然そうなっているだけなのかもしれませんが、あるいはそれだけではないのかもしれない、という気もします。研究の水準が年々上がっていき、それに見合うだけの論文を書くこともまた、どんどん難しくなっていくからです。特に研究を始めたばかりの若手は、いきなり高い水準の論文を求められるという点では、私の若かった頃などより、よほど厳しい研究環境に置かれているのではないのでしょうか。大変だなあ(普段後輩の面倒も見ずに放置している私が言うのも何ですが)。

それとはともかく、今号も力作が揃いました。劉論説では秦漢時代に文書一通でひとりの履歴が全てわかってしまうというのに驚きました。野口論説で考察されている寶融政権について私は全く知らなかったのに、非常に興味を引かれました。大河内論説では、史料をどう読むかについていろいろと考えさせられました。(田中裕介)

お詫びと訂正

史林九五巻四号・五号の奥付におきまして、理事長名が「上原正人」となっておりましたが、正しくは「上原真人」でした。謹んで訂正いたします。関係者の皆様には多大な迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

◆史学研究会ホームページ・アドレス

<http://www.shigakukenkuyukai.jp/index.html>

本誌には独立行政法人日本学術振興会平成二四年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)が交付されております。

二〇二二年 一月二五日印刷 定価一、二〇〇円
二〇二二年 一月三〇日発行

史林 第九五巻第六号(通巻第四百九十六号)

京都市左京区吉田本町京都大学文学研究科内

電話 〇七五 七五三 二七七八
FAX 〇七五 七五三 二七七八

発行人 史学研究會

振替京都 〇一〇七〇 二五一 五五番
理事長 上原真人

印刷所

京都市南区上高野藤田二九
中村印刷株式会社